

作成番号:0326

=====

一般社団法人 日本侵襲医療安全推進啓発協議会 「会員向けメールマガジン」

=====

号数:2025-326

内容:食物誘発性アナフィラキシーの重症度がより高くなる食品は?

出典:Risk Factors for Fatal and Near-Fatal Food Anaphylaxis: Analysis of the Allergy-Vigilance Network Database.

Clinical and experimental allergy. 2025 Jul;55(7):532-540.

<https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov/40441889/>

ルーベ病院センター(フランス)の研究者らは、食物誘発性アナフィラキシーの症例 2,600 件以上を調査した研究において、その重症度と原因を調査して、Clinical and Experimental Allergy 誌 2025 年 7 月号に報告した。

フランス語圏アレルギー警戒ネットワーク(Allergy-Vigilance Network)」で 2002~21 年に記録された食物アナフィラキシー症例を後ろ向きに解析し、致命的な症例(Grade4)と重篤な症例(Grade3)を比較し、重症度が高いことに関連するリスク要因を特定した。報告された 2,621 件の食物アナフィラキシー症例のうち、重症と判断された 731 件(Grade3:687 件[94%]、Grade4:44 件[6%])に死亡 19 件を加えた 750 件を解析対象とした。その 56.1%が成人(平均年齢 28.3 歳)、53.7%が男性だった。重症例全体で頻度の高い誘因は、ピーナッツ(13.9%)、小麦(9.4%)、カシュー(5.8%)、エビ(5.4%)、牛乳(4.8%)だった。Grade4 のアナフィラキシー症例は、成人よりも小児(18 歳未満)に多く発生した(18 例対 26 例)。Grade4 の症例は Grade3 の症例と比較して、原因食物に対するアレルギー歴あり(71.1%vs.42.1%)、喘息診断あり(59.5%対 30.4%)、原因食物がピーナッツ(34.1%対 12.6%)である割合が高かった。Grade4 のアナフィラキシーを予測する因子は、喘息診断あり(オッズ比[OR]:3.41、95%信頼区間[CI]:1.56~7.44)、原因食物がピーナッツ(OR:3.46、95%CI:1.28~9.34)であった。

本データは、重症食物アナフィラキシーのリスク因子、とくに喘息の既往歴と原因食物としてのピーナッツを特定した。

Statin Use and Subarachnoid Hemorrhage (SAH) Risk: A Case-Control Study

